はじめに

白石稲荷山古墳は、1933 年に最初の発掘調査が実施され、未盗掘の埋葬施設の中から豊富な副葬品が出土したことで知られる前方後円墳です。藤岡市教育委員会による範囲確認発掘調査(1985 ～ 87 年)によってその規模が墳丘長 140m、基壇を含む全長 175m と推定されたことで、同時期の東日本でも屈指の規模を誇り、埋葬施設と副葬品の全容が明らかな、古墳時代史を考えるうえできわめて重要な前方後円墳であることが明らかとなりました。1993 年には国史跡として指定され、2019 年には市教委、早稲田大学、群馬県立歴史博物館の三者による合同調査として、地中レーダーによる非破壊探査が実施されました。2023 年には早稲田大学から成果報告書が刊行され、墳丘そのものや周辺に付随する外部施設（周溝、平坦面等）を検討するうえで良好な調査成果が得られています。これらの調査成果を受けて、藤岡市教育委員会文化財保護課では、2022 年から、史跡の内容や範囲の確認を目的とした発掘調査を実施しています。

これまでの諸調査成果により墳丘そのものが整った 3 段築成の前方後円墳であることが明らかになってきた一方で、古墳の周辺に巡る「周溝」や墳丘の外側に取り付く「平坦面」については断片的な情報しか得られておらず、築造当初の姿を考えるための情報が不足していました。

そのため、本年度は墳丘外の詳細な状況を確認するために、周溝や平坦面の存在が想定される範囲を中心に発掘調査を実施しています。

成果と課題

1．古墳の南側および西側における周溝の形状が判明
2．周溝の南西部にて土橋（地山掘り残しによる）と推測される遺構を確認
3．墳丘外側平坦面が少なくとも前方部南～西側にひろがることを確認
4．墳丘東側の平坦面も古墳にともなう可能性（石列の存在）

昨年度の調査成果および本年度の R-32 ～ 34、36 トレンチの成果によって、墳丘の南側、西側には幅広の周溝がめぐることが明らかとなりました。また、R-32 トレンチの拡張区や南北トレンチにより周溝が部分的に途切れることも確実となり、地山のローム層を掘り残してつくられた土橋と推測される遺構が存在することも判明しました。また、周溝と墳丘の間には幅広の平坦面も確認されていますが、平坦面の有無や周溝の形状など、古墳を取り巻く外部施設に目を向けると、稲荷山古墳よりも少し古い古墳と考えられる倉賀野浅間山古墳（高崎市）とは大きな違いがあるようです。

とくに、古墳の外側にひろがる平坦面は、高崎市や玉村町、前橋市など、藤岡市周辺に残る同時期の古墳には認められない特殊なもので、東日本、ひいては日本全域規模で類似する事例を探しながら検討していくことが必要です。

令和 6 年度 白石稲荷山古墳発掘調査　現地説明会解説資料

本資料に掲載している調査成果図は、城倉正祥ほか（編）2023『群馬県藤岡市　白石稲荷山古墳の測量・GPR 調査』早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所の 51 頁掲載第 24 図へ発掘調査成果を加筆して作成している。両者で解釈等の異なる場合は、市教委の責による。

編集・発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課
〒375-0055　群馬県藤岡市白石 1291 番地 1
TEL：0274-23-5997

発　行　日：令和 7 年 3 月 2 日

国史跡

白石稲荷山古墳 発掘調査現地説明会

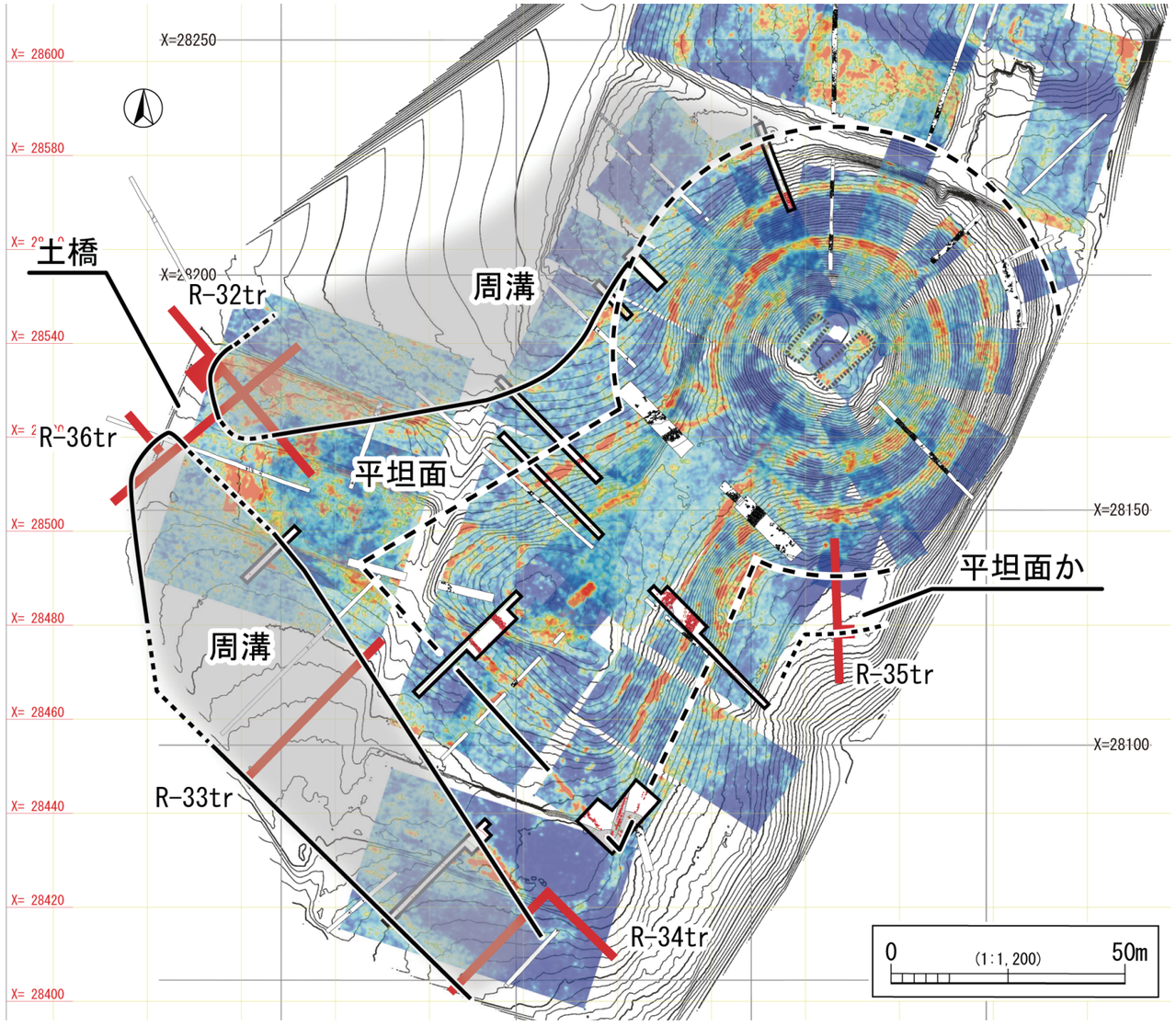
令和７年３月２日（日）
①10:00～/②11:00～

●申し込み
不要です。直接現地へお越しください。

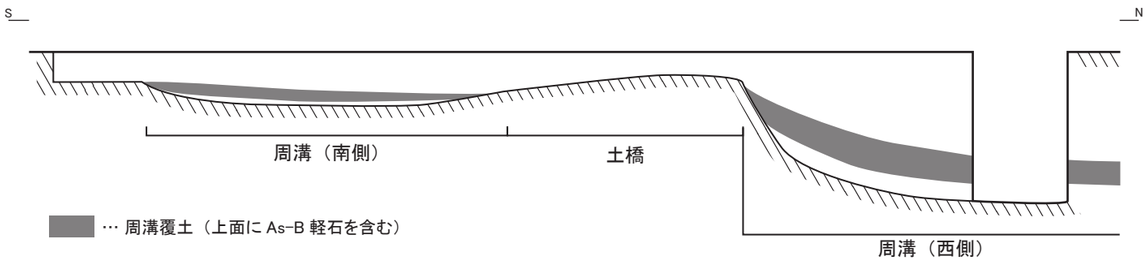
●駐車場
現地に駐車場はございません。
藤岡歴史館（藤岡市白石 1291-1）の駐車場をご利用ください。

●その他
雨天中止（小雨時は実施します）
動きやすい服装でお越しください。

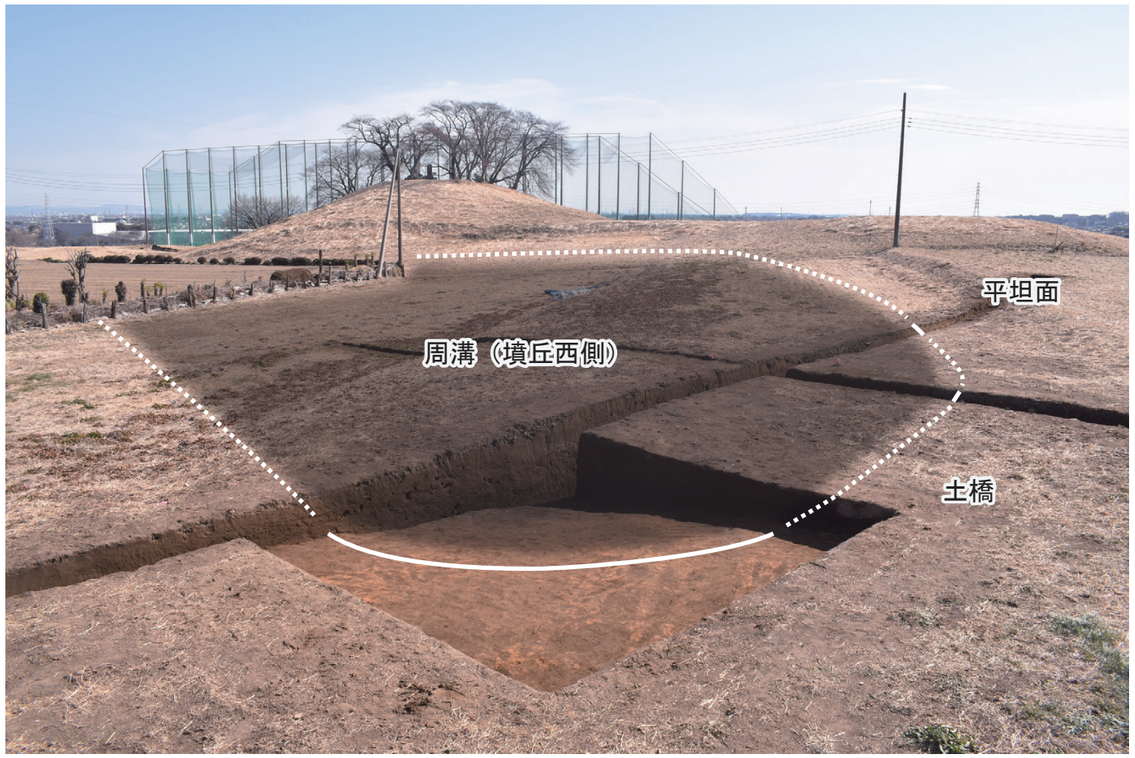
●問い合わせ先
藤岡市教育委員会　文化財保護課
TEL：0274-23-5997



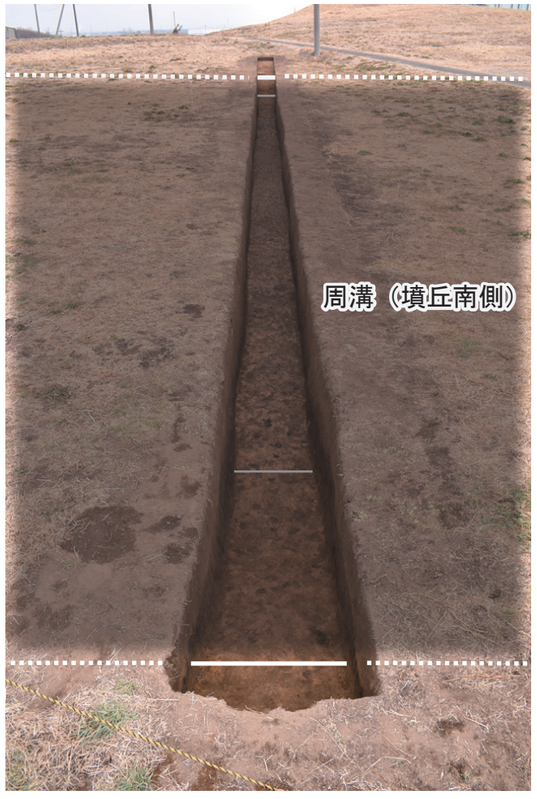
令和6年度調査区の位置と調査成果



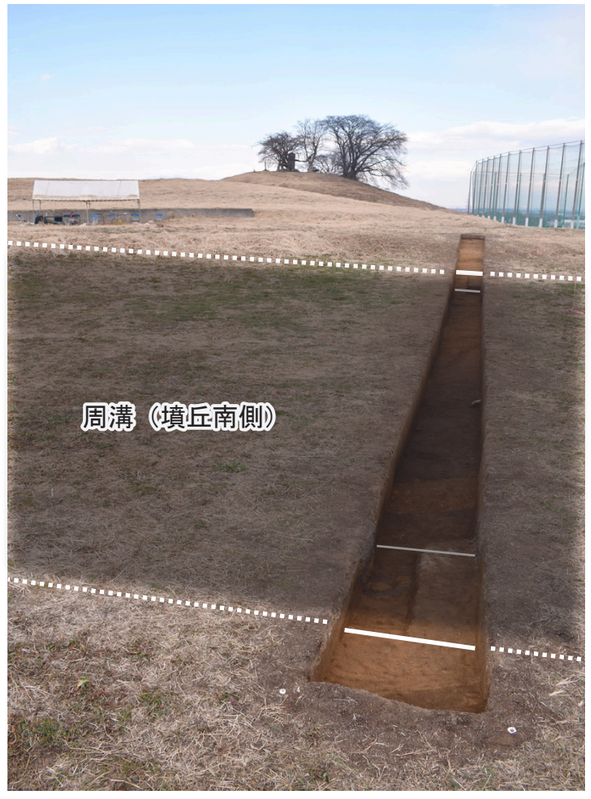
R-32 トレンチ南北方向の断面模式図



R-32 トレンチ周辺の遺構概念図



R-33 トレンチの遺構概念図



R-34トレンチ（南北）の遺構概念図